

中外日誌

浄土宗

一行院の本堂竣工 技術と努力に感謝

東京都文京区の一行政院で6日に施餓鬼法要が営まれ、併せてこのほど竣工した本堂修繕工事の表彰状が工事関係者に授与された。八木千暁住職はその技術と努力に感謝を惜しまず、「毎日のようにいろいろな職人さんが来て、本堂を直していく様子を楽しく眺めていた」と振り返った。

本堂は1970年建立

で、これまで大規模な修繕は行っていなかった。1月から5月末までの期間、内外装の塗り替えや屋根の銅板の葺き替え、山号額や宝珠の修復などを施工。当初は内外装のみの予定だったが、2017年の降雪による傷み・劣化が見つかったため屋根も葺き替えることになった。新型コロナウイルスの感染防止の観点から落慶法要は行わない。先代住職で戦後に本堂の再建を果たした八木季

生・大本山増上寺法主を
贈呈者名に据えた表彰状
が千暁住職から、施工者
代表としてあじま左官工
芸の阿嶋一浩社長に手渡
された。

阿嶋社長は「当社の漆喰は出来合いではなく、石灰、貝灰、海藻のツノマタを現場で混ぜ合わせて作ったもの。重要文化財に用いられるものと同じ漆喰がこの本堂の内壁にも使われている」と、法要に参列している同院の檀信徒に説明した。



写真。